

# 百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ混合予防接種について

## 1. 5種混合ワクチンとは

- ・ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ(急性灰白髄炎)を予防するワクチンに、ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチンを混合したワクチンです。
- ・生後2か月になったら、小児用肺炎球菌、B型肝炎とあわせて、接種を計画していきましょう。
- ・最新情報は、ウェブサイト『KNOW★V P D』(<http://www.know-vpd.jp/>)でご確認ください。インターネットで「V P D」と検索するとすぐわかります。

## 2. ジフテリアとは

- ・ジフテリア菌がのどなどについて起こる、重い病気です。
- ・ジフテリア菌は、ジフテリア毒素を大量に出して神経や心臓の筋肉を侵します。
- ・現在は、ワクチンを受ける子どもが多いことと、抗菌薬が有効で耐性菌が少ないため、ほとんど患者がでていませんが、だからこそ、ワクチンの接種が必要です。

### ジフテリアの症状・経過は？

- ・のどについてジフテリア菌が増えて、炎症が起こります。
- ・熱が出ますが、微熱のケースも少なくありません。
- ・のどの奥が白く見えることもあります。
- ・のどの炎症が強まって空気の通り道が完全にふさがり、死亡することがあります。
- ・また心臓の筋肉が侵されるので、そうすると絶対安静が必要ですが、安静にしていっても心臓が急に止まって死亡することもあります。



### ジフテリアの合併症は？

- ・神経の麻痺や心臓の筋肉に炎症が起こって死亡するケースが、現代の欧米でも見られます。

## 3. 破傷風とは

- ・破傷風菌が傷口から入って体の中で増えて、筋肉をけいれんさせる破傷風菌毒素を大量に出すことによって起こる重い病気です。
- ・土の中には必ず破傷風菌がいます。深い傷だけでなく、小さな傷からでも起こります。
- ・人から人へと直接感染することはありません。
- ・現在、40歳以下で破傷風になる人が少ないのは、40歳以下の人は子どもの頃にワクチンを受けているので免疫(抗体)が少し残っているためです。40歳以上では、年間100人ほどがかかっている、そのうち約10人が死亡しています。
- ・破傷風にかかっても免疫はできないので、何度もかかることがあります。

### 破傷風の症状・経過は？

- ・けがをしてしばらくしたのち、顔の筋肉を動かすに、笑ったように引きつった顔になる、などの症状が出ます。
- ・口がだんだんと開けにくくなり、その後、全身の筋肉がいつせいに縮んで、けいれんが起こります。
- ・おなかや背中の中の筋肉も同時にけいれんするので、最終的には、うしろに大きく弓なりになるような姿勢になります(後弓反張)。症状がひどい場合には背骨などが折れることもあります。
- ・意識の混濁が起きないために、痛く苦しい自覚症状を伴います。
- ・呼吸ができなくなるなどの症状で、最新の治療でも毎年約10人が死亡しています。

## 4. 百日せきとは

- ・百日せき菌と呼ばれる細菌がのどなどについて起こります。
- ・百日せき菌の感染力は強く、多くの場合、家族や周囲の人から感染します。以前と違って成人の百日せきも多く学校や職場で集団発生することもあります。
- ・昔に比べれば日本での患者数は減りましたが、年間数万人くらいかかっていると推定されています。
- ・全治まで2~3か月かかることから、百日せきといわれています。
- ・母親からもらう免疫は弱いので、新生児でもかかることがあります。
- ・生後6か月以下(特に3か月以下)に感染すると重症化します。

### 百日せきの症状・経過は？

- ・最初は鼻水と軽いせきが出て、かぜのような症状を示します。
- ・スタッカートのような、コンコンコンコンという短いせきが長く続いて出てくるようになると、有効な抗菌薬でも症状を止めることはできません。
- ・せきの続く時間がだんだんと長くなり、目が血走ったり舌の筋が切れたりすることがあります。
- ・乳児の場合、特に生後3か月以下では息が止まって死亡することもあります。大人の場合、苦しいですが死亡することはありません。

### 百日せきの合併症は？

- ・最も深刻な合併症は息ができなくなる無呼吸で、死亡することもありますので、呼吸が止まるくらいの時は人工呼吸が必要です。

